

MONEX Retail Investor Survey



MONEX 個人投資家サーベイ 2012年2月調査

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

個人投資家の皆様の相場環境に対する意識調査のため、2012年2月17日～2月20日にマネックス証券に口座をお持ちのお客様向けにアンケートを実施しました。ご回答くださった皆様には、ご協力に感謝いたします。誠にありがとうございます。今、個人投資家の皆様が、相場をどのようにとらえているのか、調査結果をまとめました。

「MONEX 個人投資家サーベイ」は、個人投資家の相場環境に対する意識調査として毎月アンケートを行い、その調査結果をまとめたものです。2009年10月に第1回サーベイを行い、月次で公表しております。

(※2011年3月は東日本大震災の状況を鑑み、アンケートを実施していません。)

また、2011年6月より、グループ企業であるトレードステーション証券（米国）、マネックス BOOM 証券（香港）の個人投資家の皆様にも、四半期ごとに同様のアンケートを行い、調査結果を「MONEX グローバル投資家サーベイ」として提供しております。

■ 調査結果の要約

(1) 日本株、米国株、中国株 DI ともに大幅改善

【日本株 DI】(2012年1月)29ポイント → (2月)40ポイント (前月比 +11ポイント)

【米国株 DI】(2012年1月)43ポイント → (2月)53ポイント (前月比+10ポイント)

【中国株 DI】(2012年1月)-18ポイント → (2月)1ポイント (前月比+19ポイント)

日本株、米国株、中国株 DI (※) ともに前回ポイントより大幅に改善。特に中国株 DI は、前月から 19 ポイントと改善幅が一番大きく、アンケート実施期間中に予想外の預金準備率の引き下げが発表されたことも影響していると考えられる。米国株 DI は 10 ポイント、日本株 DI は 11 ポイントと、投資家心理の改善が見て取れる結果となった。

(※DI:「上昇すると思う」と回答した%から「下落すると思う」と回答した%を引いたポイント)

(2) 日経平均株価の上値目途について、3割超が「10,000円まで上昇あり得る」と回答

「目先(1ヶ月程度)の日経平均株価」を質問したところ、「9,400円まで頭打ち」とする回答比率は 18.1%に留まり、「10,000円が上限」と「10,000円超」の回答率を合わせると、32%の投資家が目先は日経平均の上昇を見込んでいる。

(3) 業種別見通しは「医薬品」を押さえ「商社」が1位に上昇

10ヶ月連続で首位をキープしていた「医薬品」を押さえ、「商社」が1位をマークした。また「自動車」、「海運」などグローバル景気敏感の外需セクターが順位を上げ、同じく為替感応度の高い外需セクターの代表である「ハイテク」は順位を下げた。

(4) 米ドル/円相場について円安方向に進むとの見方が増加

3ヶ月後の米ドル/円相場の見通しについて円安方向を見込む回答比率が、64%と前回の 35%から 29ポイント上昇した。「80円は超える」と見込む回答比率が 38.6%と最多を占め、為替市場で鮮明となっている円安傾向を受け、円安を予想する回答比率が高い結果に。

(5) 日本株取引についての投資意欲 DI が上昇

今後3ヶ月の投資意欲の DI (※) は 31 と前月から 7ポイント改善し、2010年4月(日経平均が 11,339円となった月)の水準となった。(※DI:「売買頻度を増やしたい」と回答した%から「売買頻度を減らしたい」と回答した%を引いたポイント)

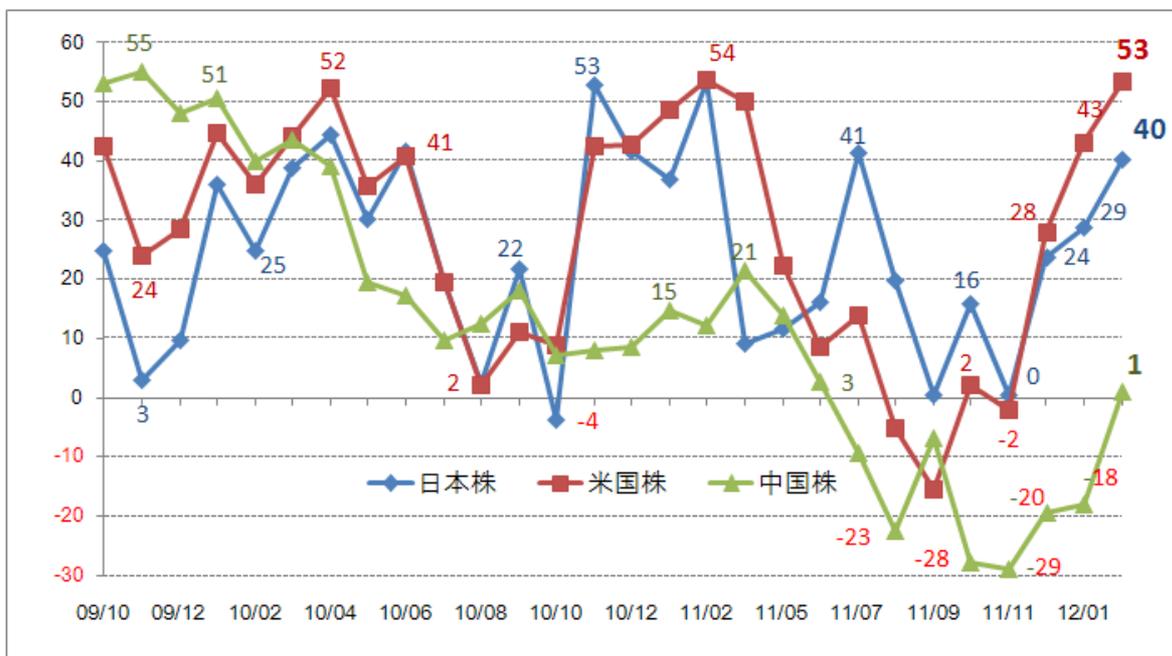
(6) 日銀の物価目標について 76.2%が「良いことだと思う」

物価上昇1%を目標とした日銀の政策については、「良いことだと思う」とする回答が 76.2%と全体の4分の3を超えた。「どちらでもない」(14.7%)との回答者の自由記述コメントには、「目標値が低い」「日銀の対応が遅い」などの意見が見られた。

■ 調査結果

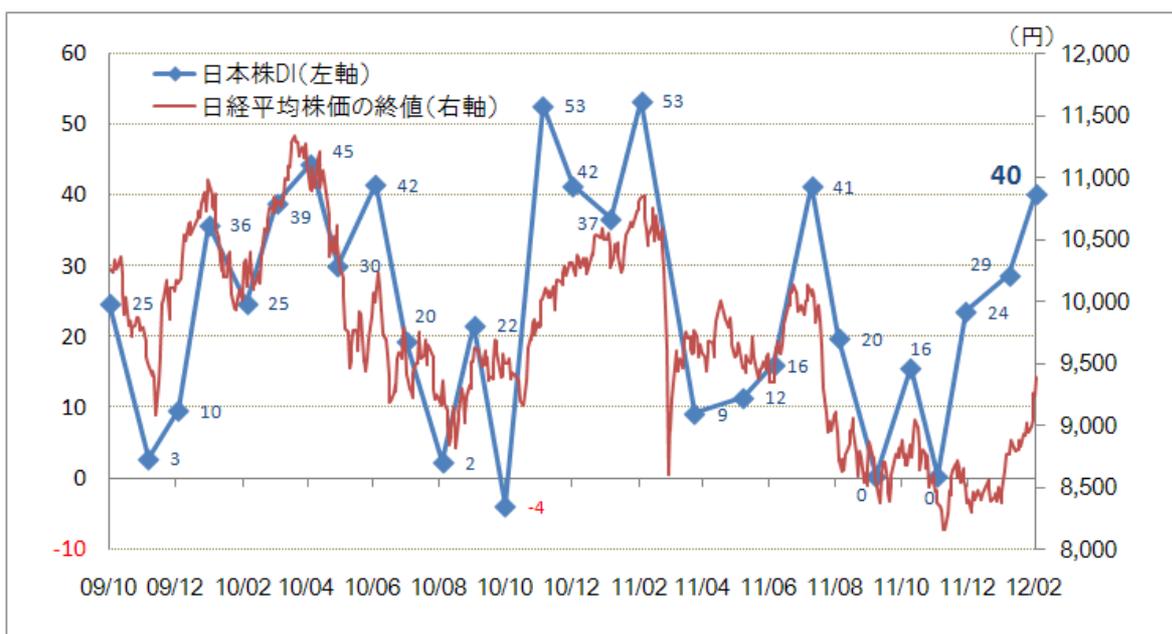
1 株式市場を取り巻く環境について

(1) 今後3ヶ月程度の株価予想（日本株、米国株、中国株のDI推移）グラフ①



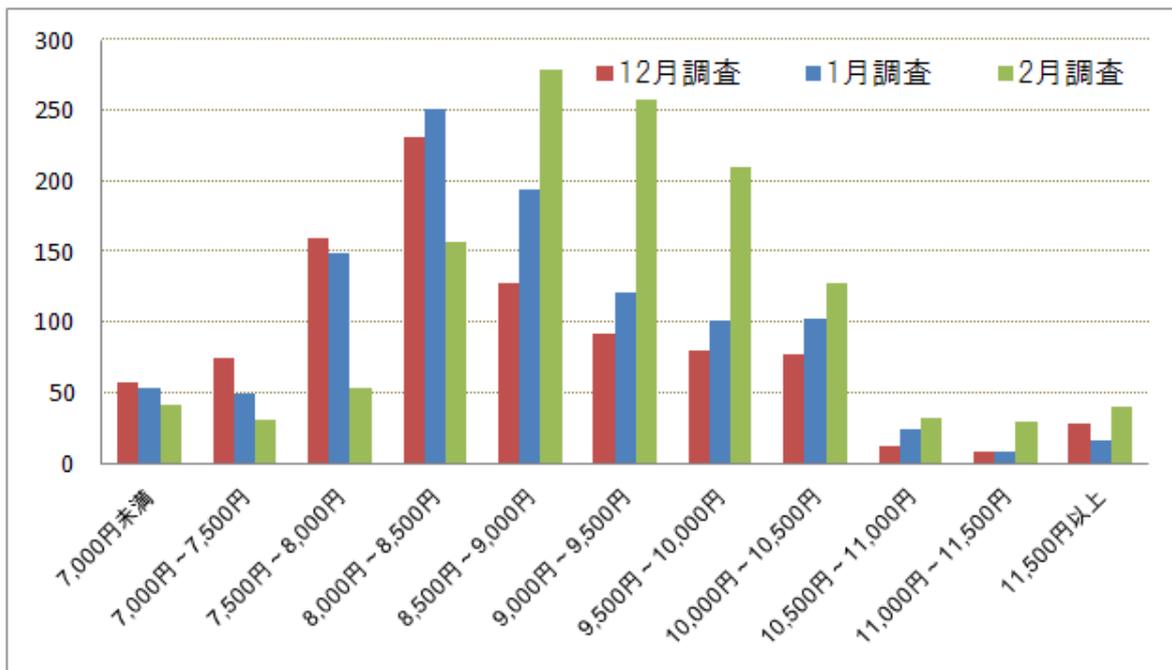
日本株、米国株、中国株 DI (※) とともに前回ポイントより大幅に改善。特に中国株 DI は前月から+19ポイントの上昇幅となった。前月から米国株は+11ポイント、日本株は+10ポイント上昇し、こちらも大幅に改善した。(※DI:「上昇すると思う」と回答した%から「下落すると思う」と回答した%を引いたポイント)

日経平均株価（終値）と日本株 DI の推移 グラフ②



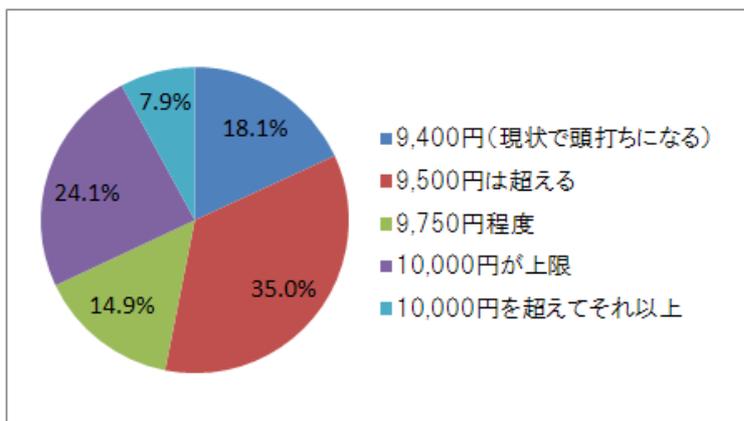
(2) 日本株を買いきたい水準

日経平均株価がどの水準であれば、日本株を買いたいと思うか グラフ③



日本株を買いきたい水準についての最多回答が「8,000円～8,500円」から「8,500円～9,000円」にシフトした。

目先（1ヶ月程度）日経平均株価はどこまで上昇すると思われるですか？ グラフ④

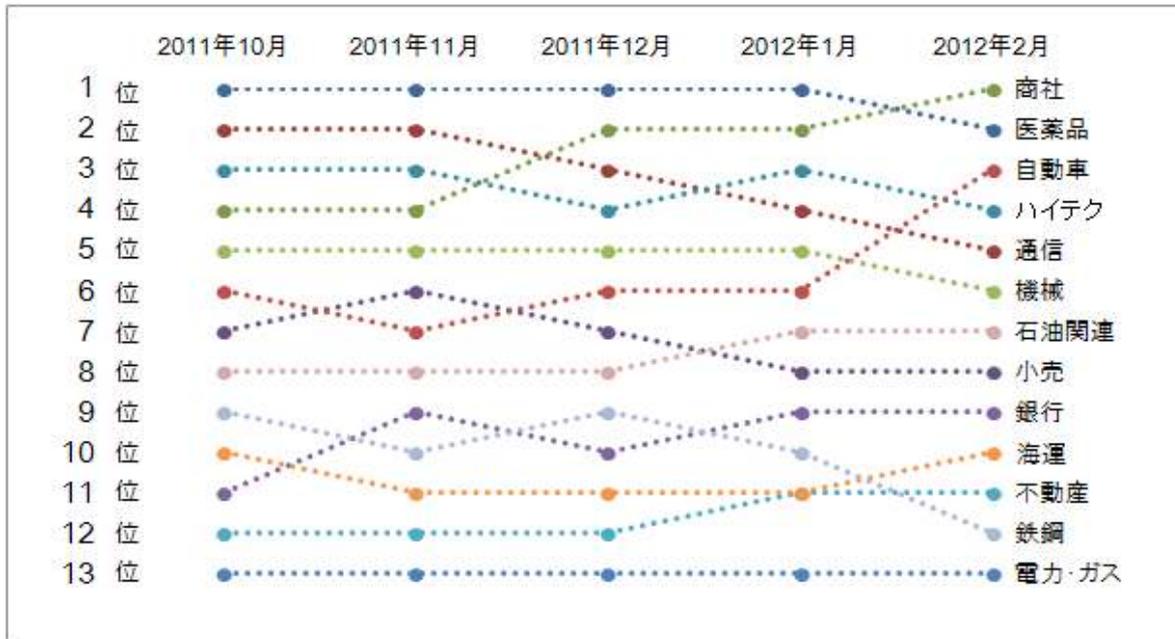


「9,400円（現状で頭打ちになる）」とする回答比率は、2割未満に留まり、大勢が一段の上昇を見込んでいる。

「10,000円が上限」と「10,000円超」を合わせると3割以上の投資家が10,000円までは上昇があり得ると考えている。

(3) 日本市場の各業種に対する今後3ヶ月程度の見通し

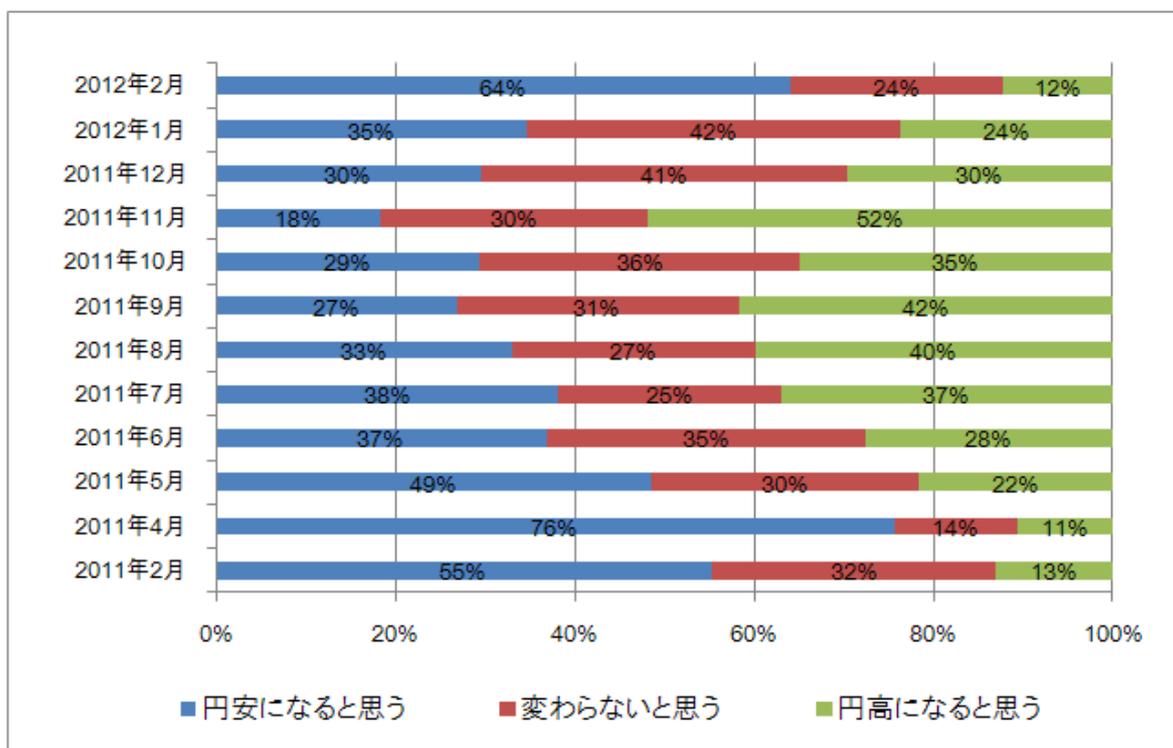
日本投資家の「魅力的であると思う業種」ランキング グラフ⑤



10ヶ月連続で首位をキープしていた「医薬品」を押さえ、「商社」が1位をマークした。また「自動車」、「海運」などグローバル景気敏感の外需セクターが順位を上げている。同じく為替感応度の高い外需セクターの代表である「ハイテク」は順位を下げた。

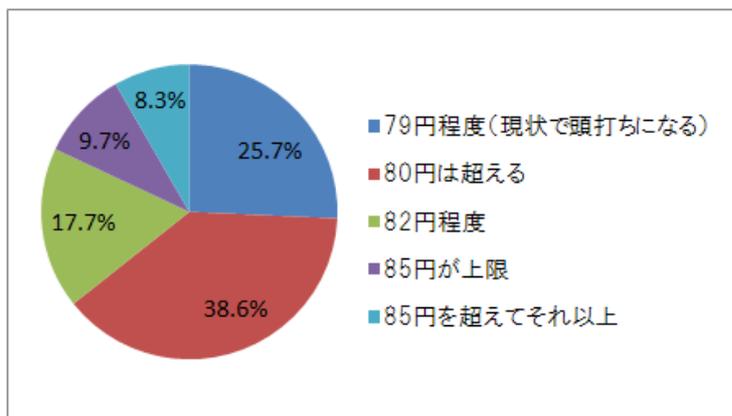
2 為替市場について

今後の3ヶ月程度の米ドル/円相場予想 グラフ⑥



3ヶ月後の米ドル/円相場の見通しについて円安方向を見込む回答比率が、64%と前回の35%から29ポイント上昇した。

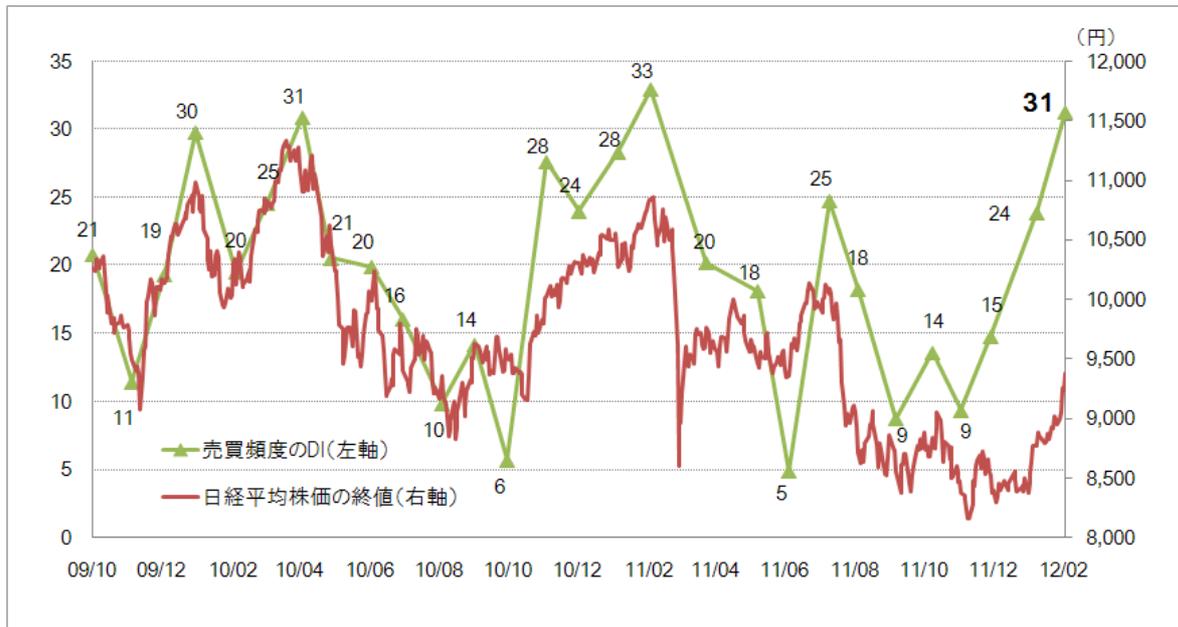
米ドル/円相場はどこまで円安が進むと思われますか？ グラフ⑦



「80円は超える」と見込む回答比率が38.6%と最多を占めた。為替市場で鮮明となっている円安傾向を受け、円安を予想する回答比率が高い。

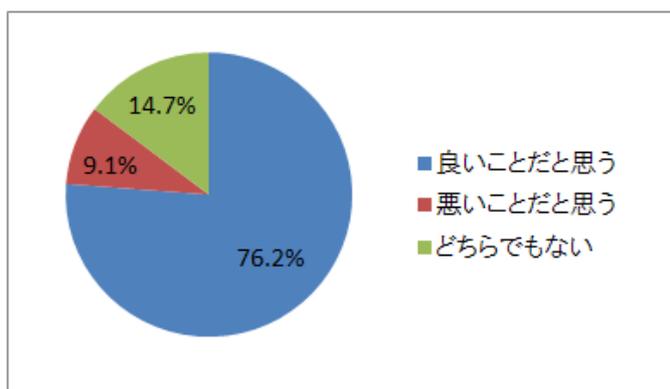
3 お客様の日本株取引について

今後3ヶ月の投資意欲について グラフ⑧



投資意欲のDI (※) は31と前月から7ポイント改善し、2010年4月（日経平均が11,339円となった月）の水準となった。(※DI:「売買頻度を増やしたい」と回答した%から「売買頻度を減らしたい」と回答した%を引いたポイント)

日銀は今回初めて「物価上昇1%めど」と明示しましたが、
このような日銀の政策についてどう思われますか？ グラフ⑨



「良いことだと思う」との回答が76.2%と全体の4分の3を超えた。「どちらでもない」(14.7%)との回答者の自由記述コメントには、「目標値が低い」「日銀の対応が遅い」などの意見が見られた。

■ 総括 (マネックス証券 チーフ・ストラテジスト 広木 隆)

世界的な金融緩和の流れを受けて株式市場の上昇基調が鮮明になっている時期に行われたアンケートですので、投資家心理の改善が見て取れる予想通りの結果となりました。日米中いずれの株式市場に対する DI も大きく改善しています (グラフ①)。

2008年5月以来の高水準まで回復したダウ平均の好調さを反映して米国株の DI は高水準にあります。対照的に中国の DI は「1」とやっとプラスに浮上したところ。中国・上海総合指数は昨年4月高値から今年1月の安値まではほぼ一本調子に下落。底打ち時期が最も遅く、その間の下落率は3割近くに達する劣悪なパフォーマンスでした。その意味では出遅れ感や売られ過ぎの修正期待もあり、DI の改善幅が一番大きかったのはその表れかもしれません。またアンケート実施期間中に予想外の預金準備率の引き下げが発表されたことも大幅改善に影響していると考えられます。いずれにせよ先行して上昇した米国株を出遅れの中国が追いかけていく展開となるか注目したいところです。

その中間に日本株は位置します。目先の戻りめどを尋ねる質問では、現状で頭打ちと考える投資家は2割未満。大勢が一段の上昇を見込んでいます。「10,000円が上限」と「10,000円超」の回答率を合わせると3割以上の投資家が10,000円までは上昇があり得ると考えているようです (グラフ④)。だいぶ個人投資家の期待も高まってきました。

このところの市場の動きでは為替市場での円安傾向が鮮明となっています。これを受けて円安を予想する回答が増加 (グラフ⑥)、業種の魅力度ランキングでも自動車、海運などグローバル景気敏感の外需セクターが順位を上げています。但し、同じく為替感応度の高い外需セクターの代表であるハイテクは順位を下げています (グラフ⑤)。これはソニー、パナソニック、シャープなど日本を代表する大手電機メーカーの巨額赤字決算見通しが嫌気されているものと思われる。

今回は日銀が「物価上昇の目途」として1%を示したことについてどう思うかとの質問を行いました。「良いことだと思う」という回答が全体の4分の3を超えました (グラフ⑨)。但し、寄せられたコメントを見るとタイミングの遅さを指摘する声や「2%でも良かったのでは」という意見もありました。この点については私も同意見です。日銀が使った「目途」という言葉は「ターゲット」ではなく「ゴール」であるとして、日銀総裁自ら「FRB (米連邦準備理事会) に近い」と語りました。そのFRBのゴールは2%です。せめて米国並みのゴールを掲げないとデフレ脱却は難しいと私は思います。なぜなら世界の中で最もデフレに苦しんでいるのは日本です。発射台が低いからこそ目標を高く掲げる必要があると考えます。

今回も皆様のご協力により有益な調査結果を得ることができました。皆様の資産運用を考える一助となれば幸いです。

(マネックス証券 チーフ・ストラテジスト 広木 隆)

■調査の概要と回答者の属性

調査方式： インターネット調査
 調査対象： マネックス証券に口座を保有している個人投資家
 回答数： 1,367件
 調査期間： 2012年2月17日～2月20日

【性別】

男性	女性
85.7%	14.3%

【年齢】

未成年	20代	30代	40代	50代	60代	70歳超
0.1%	4.6%	21.7%	30.4%	20.5%	16.9%	5.9%

【金融資産】

500万未満	500万 ～1000万	1000万 ～2000万	2000万 ～5000万	5000万 ～1億	1億以上
32.1%	22.8%	18.6%	18.8%	5.9%	1.9%

【売買頻度】

デイトレ	週に数回	月に数回	数ヶ月に1回	それより少ない
6.3%	14.2%	26.9%	27.9%	24.7%

【株式投資のご経験】

1年未満	2年～5年	5年～10年	10年以上
7.0%	22.8%	29.5%	40.7%

本情報は当社が実施したアンケートに基づいて作成したものです。

- ・ 本情報は売買のタイミング等を反映したものではなく、また示唆するものではありません。
- ・ 当社は記載した銘柄の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・ 当社は本情報の内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・ 銘柄選択や売買タイミングなどの投資にかかる最終決定は、お客さまご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

マネックス証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号

加入協会：日本証券業協会、（社）金融先物取引業協会、（社）日本証券投資顧問業協会